

「マラウイ便り」 ～雨季のはじまり～

Vol.5

日本の主食といえばお米ですが、マラウイではシマと呼ばれる食べ物が主食です。シマはメイズと呼ばれるトウモロコシの一種を製粉し、お湯で練ったものです（写真①）。雨季が始まると、メイズの作付けがピークを迎えます。デッサ県では写真②のようにメイズが育ち始め、茶一色だった農地を緑色に変え始めました。これから種まきを行う畑でも、作業に追われています。そこでよく目にするのが、チテンジと呼ばれる布で子供を包み、背負いながら畑仕事に勤しむ女性の姿です。子守しながら農作業を行っている母親の姿は逞しく、背負われている子供は首から上だけ出して、お母さんの仕事ぶりを眺めているかのようです。マラウイでは当たり前前の光景ですが、一昔前の日本でも同様の光景を目にすることができたことでしょうか。「母は強し！」というのは、世界共通なんだなあと感じました。

雨季が始まると、私たち灌漑省の職員は施設管理や営農状況の確認のため、村の巡回を行います。聞き取り調査が行うため、村長さんに連絡をとる必要があります。連絡を取る際には、携帯電話が一番早い手段となります。マラウイに限らずアフリカ諸国の携帯電話の通話料金はプリペイド式です。マラウイには3社の電話会社があり、写真④が各社のプリペイドカードです。カードはどこでも手に入り、カード裏の銀紙を削って15桁の数字を入力することで料金をチャージし、使用します。日本と同様に都市部では、携帯電話が必須アイテムで、レストランでもバスの中でもマラウイアンは頻繁に使用します。最近では、スマートフォンを使っている人も見かけるようになりました。一方、農村部では電気がなく、電波状況も悪いため所持率が低く、連絡手段が無いことが少なくありません。連絡が取れないまま2時間かけて村に行ったのに、村長が不在で村人から“残念また今度”と言われ、手ぶらで帰ることもいうこともしばしばあります。「電話があればなあ」と思いながら、再び2時間かけて家路を目指すのでした。



写真①:右奥の白いものがシマ



写真②:メイズ畑



写真③:子守と農作業の両立



写真④:携帯電話のプリペイドカード

明日使えるかもしれないチェワ語: Muli kuti tsopano? (ムリ クティ ソパノ)「今、どこにいる?」